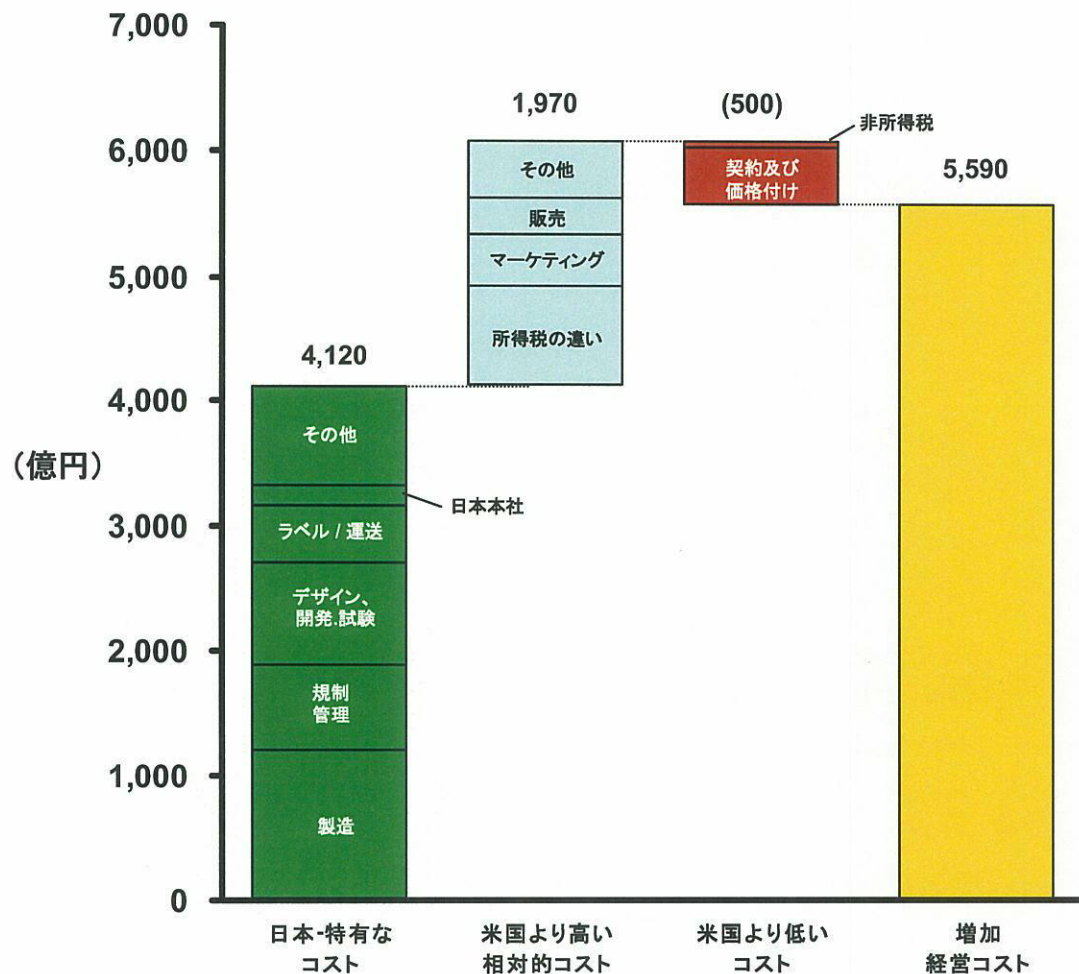


日米のコスト構造の差異の分析より、下図の通り、医療機器(医療材料を含む)産業は日本特有の市場要因等のために、米国に比して、年間約5600億円の追加支出が発生している

### 増分経営コスト



### コメント

- 日本でのより高い経営コストの主要な要因として:
  - 日本向け製品に発生する製造コスト
  - 規制に対する遵守及び管理にかかるコスト
  - 追加製品デザイン、開発、試験にかかるコスト
  - 営業、マーケティングコスト
- 上記のコストは以下のコストによって部分的に相殺される(この部分は、米国のコストのほうが高い):
  - 非所得税
  - 契約及び価格交渉
- ACCJ メンバー企業のデータは医療機器産業全体として日本の市場要因や要求のために約5600億円を支出していることを示唆

\*注記: ACCJ メンバー企業の最近の支出データを基に推計  
 出典: L.E.K. / Acumen 分析、ACCJ メンバー企業、R&D

## 革新的な医療機器に対する評価

- 日本の保険償還制度は革新的な製品を適切に評価すべきである
- C1製品は保険希望時に暫定的な償還価格が与えられるべきである
- C2製品は保険適用収載の回数を年4回とすべきである
- C1及びC2製品についての保険適用の基準を明確にすべきである

## 勢いをそがれる国内産業

- 創造性に富んだ日本にもかかわらず、さまざまな障壁があり、日本の医療機器産業は全体としてそれほど活発ではない
- 厚生労働省の「医療機器産業ビジョン」は問題を認識している
  - 「我が国発で大ヒットとなった医療機器は非常に少ない」
  - 米国の医療技術産業の研究開発費は日本より多く、差は開きつつある
- 外国からの直接投資は日本以外の国に流れている